



長寿切手の年輪を読む 年賀切手

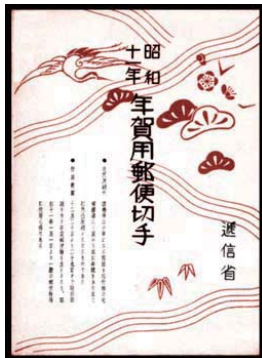
長寿切手で最後に整理したいのが年賀切手である。1935年から3年発行され、その後1947年まで中断し、国体、切手趣味週間に遅れたが、1948年に再び発行された。そこで戦後、戦前と別けて整理していきたい。

戦前の年賀切手3種

1935, 36, 37年に発行枚数3億枚発行された年賀切手、その発行には異なる経緯があったようだ。1934年に年賀郵便取扱が7.2億通に増加。効率的に処理するため、特別取扱期間内差出を目的に年賀切手発行が決定され、12月20日から29日が差出期間、年賀



郵便以外の使用は1月1日以降ということで発行された。100枚シートと20枚の小型シートがタトウも準備され発行された。



1935年発行年賀切手と小型シートとタトウ



1936年発行



1937年発行

1936年は公募したが1等該当なく、2等の図案をグラビア印刷機を持つ大日本印刷に委託し、大正透かし入り毛紙に印刷。前年同様に年賀以外

の使用は1月1日以降として発行された。

1937年徐々に戦時体制となり虚礼廃止の動きの中、年賀切手として発行できず使用期間を設けず、旭光と鳥居の柱を背景に環飾りの図案を普通切手として発行した。しかし年賀状は激減し、3.27億枚発行されたが半数以上の1.85億枚は売れ残り、破棄された。この後1948年まで年賀切手は発行されていない。

戦後の年賀切手

11年ぶりに1948年、年賀切手が発行され、表1に示すように国体に次ぐ長寿切手になっている。

1. 種類

年末に翌年の干支にちなむ図案の切手を発行し、その切手の小型シートを1月中旬年賀はがきの景品として発行するスタイルで継続している。細かく見ると、1949年に年賀切手の発行はなく、この年から市民の発案で年賀はがきが発行され、翌年2



1949年初の年賀切手



1948年戦後初の年賀葉書

表1 戦後の年賀切手発行の推移

	発行種	発行枚 数 万枚	小型シート 切手数	特記事項
1948年	1	760		縦長大
1949年	0	年賀はがき発売開始		
1950年	2	1000	5	大型
1951年	1	1000	5	タトウ
1952年	1	1000	4	タトウ
1953年	2	1000	4	1952～66年は年賀切手額面は葉書料金5円だが、この間年賀状は4円で出せたため年賀切手なのに年賀状に使った例が少ないといわれる。
1954年	1	500	4	
1955年	1	600	4	
1956年	1	600	4	
1957年	1	800	4	
1958年	1	1500	4	
1959年	1	1000	4	
1960年	1	800	4	
1961年	1	1000	4	
1962年	1	1500	4	
1963年	1	2000	4	
1964年	1	3300	4	
1965年	1	3500	4	
1966年	1	10000	4	
1967年	1	7000	4	普通切手サイズ開始
1968年	1	7000	4	
1969年	1	7000	4	料金変更
1970年	1	7000	4	
1971年	1	7000	4	横長
1972年	2	15000	3	
1973年	1	10000	3	横長
1974年	1	5000	3	
1975年	1	8000	3	
1976年	1	5000	3	
1977年	1	5000	2	
1978年	1	5000	2	
1979年	1	5000	2	
1980年	1	5000	2	
1981年	1	5000	2	
1982年	1	5000	2	
1983年	1	7000	2	
1984年	1	7000	2	

	発行種	発行枚 数 万枚	小型シート 切手数	特記事項
1985年	1	7000	2	
1986年	1	7000	2	
1987年	1	7000	2	
1988年	1	7000	2	
1989年	2	9000	2	最初のくじ付切手1種
1990年	3	10500	2	くじ付切手2種
1991年	4	9000	2	くじ付切手は寄付金付
1992年	4	8800	2	
1993年	4	8700	2	
1994年	4	8500	2	
1995年	4	8500	2	
1996年	4	8500	2	
1997年	4	8500	2	
1998年	4	8500	2	
1999年	4	8500	2	
2000年	4	8300	2	
2001年	4	8100	2	
2002年	4	7300	2	
2003年	4	6600	2	
2004年	4	10100	2	
2005年	4	6170	2	
2006年	4	5690	2	
2007年	4	5180	2	
2008年	6	4455	2	
2009年	4	4105	2	
2010年	4	3865	2	
2011年	4	4385	2	
2012年	4	4365	2	
2013年	4	4395	2	
2014年	6	4665	2	海外用切手で2種
2015年	4	4155	2	
2016年	4	3325	2	
2017年	6	3110	2	小型シート用切手2種
2018年	6	3030	2	小型シート用切手2種
2019年	8	2704	4	特別年賀シートで2種+
2020年	6	2440	2	小型シート用切手2種
計72年	182	483957		

月1日に虎年賀を80枚シートで普通切手として発行した。これは同日発行の虎年賀の小型シートのため、制度上必要で発行された切手であり、時期的に年賀状に使用されることは不可能な切手で、厳密には年賀切手ではない。ウサギと少女切手も同様に小型シートを作るための切手である。その後三春駒までの2種の年賀切手も元日以降の発行であり、現在の12月差出の慣例では年賀状使用にならない年始切手であった。

年始と年末発行の切り替えで2種発行に



無目打の年賀切手



1950.2.1発行 目打ありの虎切手は厳密には2円普通切手の年始切手



1951.01.01



1952.01.16



1953.01.01

年が明けてからの発行の普通切手の年始切手



なった1953年と、1972年7円宝船切手が、翌73年2月の郵便料金変更で、このまま採用できないため、料額を10円として、小型シートで発行。また制度上、普通切手として発行する必要があり地色を変更して100枚シートで発行された。この2種発行以外は1989年封書用切手加わるまで1種発行である。

1992年以降2016年までは、はがき、封書用に寄付金・抽選番号付と無しの4種の発行が続いた。その間2008年発行のお年玉小型シートに年賀切手とサイズ・図案の異なる切手を使用した。

この間に制度変更がされたのであろうか、普通切手の発行なく小型シートは発行された。その後、2017年以降年賀切手の図案とは全く異なる図案の切手の小型シート発行へと連なっている。



はがき用年賀切手と小型シートの同額切手



2017年より普通切手発行の縛りなくデザインも新たに小型シートに登場

また、2014年には『平成27年用海外年賀切手(差額用) Special 18yen Stamps for International Airmail Postcards』

International Airmail Postcards』という2種の切手が発行され6種の発行になっている。この差額用切手はキジ航空切手以来55年ぶりである。しかし、年賀切手としては1年だけ、その後4年は『海外グリーティング(差額用)』となり、5年目には国際文通週間切手の1種になった。海外用としてのデザインが問われたのであろう。この切手は下記のように国際文通週間に2種の切手の発行をもたらしたと考えられるが、普通切手への配慮が検討されてもよかったのではと考える。

更に、2019年には4月に再度抽選を行い500円切手2種の特別小型シートを5月に



平成27年用海外年賀切手(差額用)

Special 18yen Stamps for International Airmail Postcards



2015年発行 2016年発行
海外グリーティング(差額用)



2017年発行 2018年発行
海外グリーティング(差額用)

年賀切手と同日発行のグリーティング切手
他グリーティング切手同様発行年表示なし



年賀切手差額用が最終的に国際文通週間切手の差額用に変化した。同時に海外宛のはがき用切手も発行される。



2019 年特別年賀シート
賞品のシールにはシリアル番号が入り、通信販売されたものにはシリアル番号はない。



くじ付のみの年賀切手はこの3種のみ
1989 年ははがき用のみ 1990 年に封書用年賀切手がくじ付で最初に発行される。



1991 年以降くじ付年賀切手は全て
寄付金付となって今日までつく

発行し、発売もされた。また封書用年賀切手、くじ付、寄付金付切手が 1980 年代終わりから相次いで発行された。

2. 発行枚数

発行枚数（各年、年賀切手全体合計）の推移は表 1、図 1 の通りである。突出する年の 1971 年の宝船は郵便料金値上げ対応の発行の結果である以外理由が考えにくい。全体的に見ると 2000 年以降、発行枚数減少は明らかである。年賀郵便としてウェイトの高い年賀はがきの発行枚数は図 2 の通りであり減少傾向

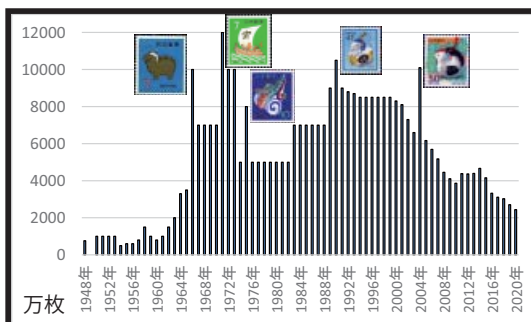


図 1 戦後の年賀切手の発行枚数の推移

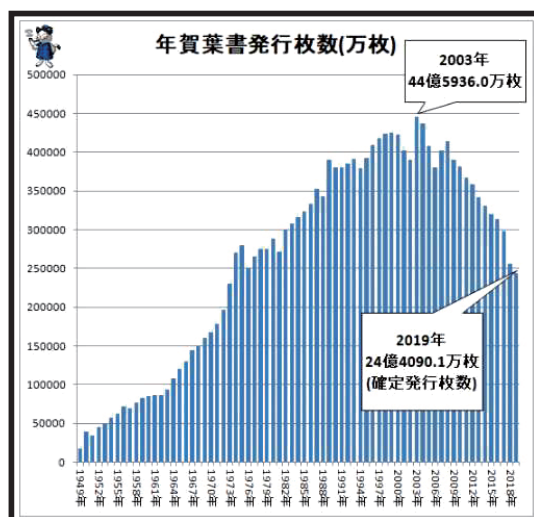


図 2 戦後の年賀はがきの発行枚数の推移

参考 郵便物配達数の推移をさぐる (2020 年公開版)
<https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwarai/20200804-00191586/>

向はかなり異なり、はがきより早く減少がはじまり、減少の速度も速いようである。蛇足ながら、年賀はがきについてはオイルショック（1975 年）、バブル景気（1989 年）、いざなぎ超え景気（2003 年）、リーマン・ショック（2008 年）と景気の変わり目で発行枚数が増えているという見方もあるが年賀切手には見られないようだ。

角度を変えて発行枚数を考えたい。年賀切手と他の長寿切手（国体、国土緑化、切手趣味、国際文通）で発行枚数の推移に違いがみられるか否かである。年賀郵便という目的で発行される年賀切手は、他の長寿切手とは異なる。

まず、件（同日、同目的発行を 1 件、第 3 回国体 4 種を 1 件とするように）で発行

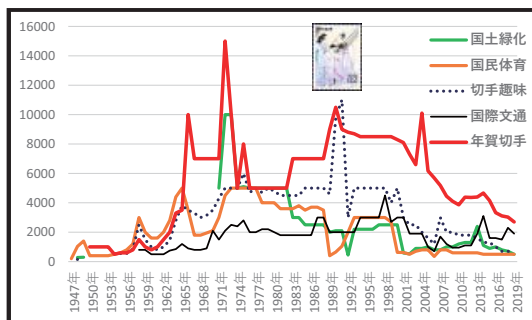


図3 発行件別長寿切手の発行枚数の推移

枚数を整理したのが図3である。1956年～1964年に他長寿切手の発行枚数が多い以外は年賀切手の発行が多く、年賀切手の役割が示されている。その中で1990年切手趣味週間が年賀切手より多く、この切手の発行が普通でないことを改めて認めた。次に、発行種類を考慮し1種の平均発行枚数で整理したのが図4である(寄付年賀除外)。全体的に年賀切手の性格を考えると、もう少し他の長寿切手より多くてもと考えられる結果である。特に1990年～2000年にかけては他の長寿切手の1種当りの発行枚数は年賀切手に比べ多く、乱造されていたことが示されている。その後は長寿切手全体の発行枚数が少なくなっている中、年賀切手は役割を示して一定の発行枚数を維持している。

3. サイズと图案

切手サイズは特別シートを除き、右上のように8種のサイズで発行され、2021年にはシール変形切手が発行され、今後、グリーティング切手のように増えていくのであろうか。

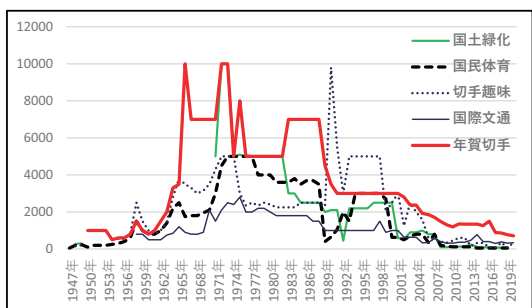


図4 長寿切手の平均発行枚数の推移



24種



63種

4種

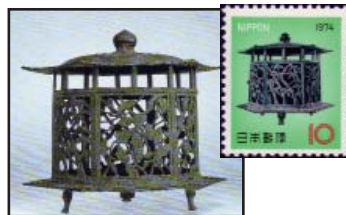
小型シート 2種

年賀切手のサイズを整理

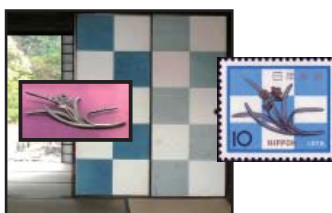
图案は干支の動物に関連したもので全体の86%を占め、中でも干支動物の郷土玩具がその94%を占め、例外的に干支動物の絵、写真が切手に見られる。また縁起物の人形、絵画工芸品などがみられる。



干支に関連ない郷土玩具、人形



梅竹透鈔燈籠
1973年発行年賀切手



桂離宮襖と釘隠し
1974年発行年賀切手

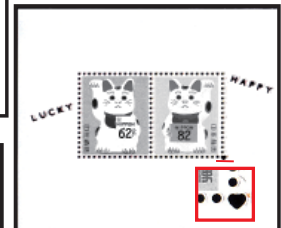
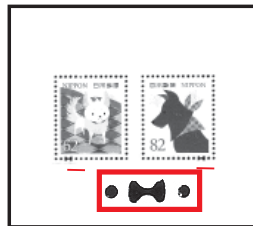


干支の動物
写真

4. 小型シート

2019年の特別シートを除くと戦後1950年から毎年発行され計72種になる。構成する切手の数は5枚から徐々に減じ、5枚2年、4枚20年、3枚5年、2枚45年、種類は、はがき用切手1種が39年、はがき+封書用切手の2種が33年発行されている。その中で1987年～90年の4年は封書用年賀切手でなく慶賀用折鶴切手が使用されている。2008年はデザインは似ているが2種ともサイズが大きくなり、景品だけでなく購入もできた。また、2017年以降は小型シートのために郷土玩具でなく全く新しいデザインの2種の切手が小型シートになっている。これらは海外で印刷され、年賀切手は印刷局印刷という従来の慣例から外れている。これらの新デザインシートには新たな表現が加わった。それは図形、文字等の型抜き、変形目打である。また、小型シート発行当初の1950、51年にはタトウが発売され、現在とは違ったあつかいを受けていたことが感じられる。

2017,18,19年デザインを一新、外国で印刷、変形目打、文字、多孔模様などがなされた。



2021年から
シール小型シートに
何か有難みが減ったか



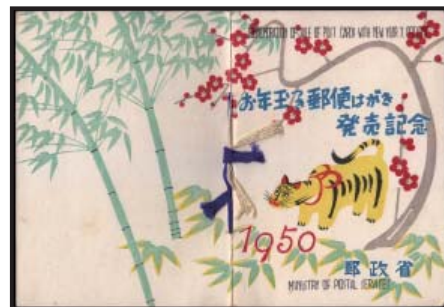
1987年～1990年
慶賀用折鶴切手使用



年賀切手と異なる切手の
小型シート 2008年



縦長小型シート 1975,1985年の2年



木版画の表紙・複数のページのタトウ



郵政省以外に郵便友の会もタトウを準備

